

資料編

参考・引用文献一覧

第1章第1節

- 相田勇、1979：「1944年東南海地震津波の波源モデル」，『東京大学地震研究所彙報』，54，329–341.
- 相田勇、1981：「東海道沖におこった歴史津波の数値実験」，『東京大学地震研究所彙報』，56，367–390.
- Ando, M. 1975 : Source mechanisms and tectonic significance of historical earthquakes along the Nankai trough, Japan, *Tectonophysics*, 27, 119–140.
- 中央防災会議東海地震に関する専門調査会、2001：「第6回東海地震に関する専門調査会資料」，『新たな想定震源域案』
- 中央気象台、1946：『気象要覧』，第568号，40–43.
- 羽鳥徳太郎、1974：「東海・南海道沖における大津波の波源—1944年東南海」，「1946年南海道津波波源の再検討と宝永・安政大津波の規模と波源域の推定」，*地震* 2, 27, 10–24.
- 羽鳥徳太郎、1975：「明応7年・慶長9年の房総および東海南海道大津波の波源」，『地震研究所彙報』，50, 171–185.
- Ichinose, G., H. K. Thio, P. Somerville, T. Sato, and T. Ishii, 2003 : Rupture Model of the 1944 Tonankai Earthquake from waveform inversion of teleseismic and regional seismograms, *Bull. Seis. Soc. Am.*,
- 飯田汲事、1977：「昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布」，愛知県防災会議，愛知県，120pp.
- 今村明恒、1944：「遠州沖大地震所感」，*地震* 1, 16, 299–303.
- Inouchi, N. and H. Sato, 1975 : Vertical Crustal Deformation Accompanied with the Tonankai earthquake of 1944, *Bulletin of the Geographical Survey Institute*, 21, 10–18.
- Ishibashi, K. 1981 : Specification of a Soon-to-Occur Seismic Faulting in the Tokai District, Central Japan, Based upon Seismotectonics, Reprinted from *Earthquake Prediction—An International Review*, Maurice Ewing Series, 4, 297–332.
- 岩田孝仁・浜田信生、1986，「1944年東南海地震前後の地震活動」，*地震* 2, 39, 621–634.
- 地震調査委員会、1999：「日本の地震活動」，395.
- 地震調査委員会、2001：「南海トラフの長期評価について」，46.
- 海上保安庁水路部、1948：「昭和21年南海大地震調査報告津波編」，『水路要報増刊号』，39.
- Kanamori, H. 1972: Tectonic implications of the 1944 Tonankai and the 1946 Nankaido. earthquakes. *Phys. Earth Planet. Inter.*, 5, 129–139.
- Kikuchi, M., M. Nakamura and K. Yoshikawa, 2003 : Source rupture processes of the 1944 Tonankai earthquake and the 1945 Mikawa earthquake derived from low-gain seismograms, *Earth Planets Space*, 55, 159–172.
- Sugiyama, Y. 1994 : Neotectonics of Southwest Japan due to the right-oblique subduction of the Philippine Sea plate, *Geofisica Internacional*, 33, 53–76.
- Tanioka, Y. and K. Satake, 2001b: Detailed coseismic slip distribution of the 1944 Tonankai earthquake estimated from tsunami waveforms, *Geophysical Research Letters*, 28,
- 東海沖海底活断層研究会、1999：「東海沖の活断層」，151，東大出版会，1999.
- 山中佳子、2006：「再考—1944年東南海地震—」，『日本地震学会講演予稿集』，2006年度秋期大会，A019, 12.
- 山下文男、2002：『君子未然に防ぐ—地震予知の先駆者今村明恒の生涯—』. 東北大学出版会
- 宇佐美龍夫、1996：『新編日本被害地震総覧』，434，東京大学出版会.

第1章第2節

- 林能成、2004：「1944年東南海地震による愛知県及び名古屋市の被害」，月刊地球，vol. 26, 773–779.
飯田汲事、1977：「昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布」，愛知県，119.
能島暢呂、2004：「1944年東南海地震による周辺域の被害」，月刊地球，Vol. 26, 780–786.
鷺坂清信・黒沼新一、1945：「昭和十九年十二月七日 東南海地震の三重・和歌山兩県下實地踏査報告」，東南海大地震調査概報（中央気象台発行）.
表俊一郎、1946：「昭和19年12月7日東南海大地震に伴った津浪」，東大地震研究所彙報，vol. 24, 31–62.

第2章第1節1

- 小白井亮一・小林政能・永井信夫・鈴木康弘、2006：「津波被害を捉えた航空写真—東南海地震の新たな資料を発見ー」，『航空写真とリモートセンシング』，Vol. 45, No. 6, 69–72.

第2章第2節

- 安城市史編集委員会、2006：「東南海・三河地震と復旧対策」，『新編 安城市史7』 資料編近代，安城市，659–672.
安城市歴史博物館、2006：『三河地震 一直下型地震の恐怖ー』，1–112.
飯田汲事、1977：『昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布』，愛知県防災会議地震部会，1–96.
小川郷土史編集委員会、1998：「明治・大正・昭和の災害」，『小川の歴史を探る』，小川町郷土史刊行会，329–335.
木村玲欧・林能成、2004：「埋もれている被災風景を掘りおこす—被災写真から得られた碧南市・原田三郎さんの被災体験ー」，『月刊 地球』，通巻305号・Vo126, No11, 海洋出版，795–805.
斎藤弘之、2006：「三河地震とは何だったのか —「幻の地震」の実態ー」，『三河地震 一直下型地震の恐怖ー』，98–106.
安城市歴史博物館編(2006)：「企画展図録・三河地震一直下型地震の恐怖ー」，安城市歴史博物館，123p.
地域史深溝編さん委員会編(1999)：「地域史深溝」，地域史深溝編さん委員会，764p.
飯田汲事(1978)：「昭和20年1月13日三河地震の震害と震度分布」，愛知県，96p.
和泉町犠牲者遺族会編(1994)：「三河地震体験手記 恐怖の一月十三日」，和泉町犠牲者遺族会，65p.
川崎一朗・島村英紀・浅田敏著(1993)：「サイレント・アースクエイク」，東京大学出版会，254p.
Kikuchi, M., Nakamura, M. and Yoshikawa, K. (2003): Source rupture processes of the 1944 Tonankai earthquake and the 1945 Mikawa earthquake derived from low-gain seismograms, Earth Planets Space, 55, 159–172.
木股文昭・木村玲欧(2005)：三河地震60年目の眞実，中日新聞社，218pp.
木村玲欧・林能成(2005)：被災体験の絵画化による災害教訓抽出・整理手法の提案—1944年東南海地震・1945年三河地震を事例としてー，歴史地震，vol. 20, p. 91–104, 2005.
幸田町教育委員会編(1995)：「幸田町史資料編2（近代）」，幸田町，1062p.
小川町郷土史編集委員会編(1998)：「小川の歴史をさぐる」，小川町郷土史刊行会，539p.
富田武平著(1989)：「藤井町時の流れと私の思い出」，自費出版，152p.
角岡田賀男著(1990)：「学童集団疎開と三河地震」，こころの科学社，193p.
わすれじの記編集委員会(1977)：わすれじの記—三河地震による形原の被災記録ー，三河地震記念事業奉賛会，264pp.

第2章第4節

- 宮坂五郎・市川一雄、1992：『戦争が消した諏訪“震度6”』，信濃毎日新聞社
宮坂五郎・飯田悦司、1994：『東南海大地震記録集』，東南海地震体験者の会

第3章第3節

- Ando, M. 1975, Possibility of a major earthquake in the Tokai district, Japan and its pre-estimated seismotectonic effects, Tectonophysics, 25, 690–685.
Ishibashi, K. 1981 : Specification of a Soon-to-Occur Seismic Faulting in the Tokai District, Central Japan, Based upon Seismotectonics, Reprinted from Earthquake Prediction-An International Review, Maurice

- Ewing Series, 4, 297–332.
- Kagan, Y. Y. and D.D. Jackson, 1991, : Seismic gap hypothesis: ten years after, *J. Geophys. Res.*, 96, 21, 419–21, 431.
- McCann, W.R., S.P. Nishenko, L.R. Sykes, J. Krause, 1979 : Seismic gaps and plate tectonics: seismic potential for major boundaries, *Pure Appl. Geophys.*, 117, 1082–1147.
- Miyazaki, S. and K. Heki, 2001 : Crustal velocity field of southwest Japan: Subduction and arcarcollision, *Journal of Geophysical Research*, 106, 4305–4326.
- Mogi, K. 1969 : Relationship between the Occurrence of Great Earthquakes and Tectonic Structures, 47, 429–451.
- Mogi, K. 1982 : Seismicity in western Japan and long-term earthquake forecasting, in Maurice Ewing Ser. 4, *Earthquake Prediction*, 43–51. edited by D. W. Simpson and P.G. Richards, American Geophysical Union, Washington, D.C.
- Nishenko, S.P. and L.R. Sykes, 1993 : Comment on “Seismic gap hypothesis: ten years after” by Y.Y. Kagan and D.D. Jackson, *J. Geophys. Res.*, 98, 9909–9916,
- Sagiya, T. 1998, Crustal movements as earthquake precursors –Leveling anomaly before the 1944 Tonankai earthquake revised-, *Bull. Geogr. Surv. Inst.*, 44, 23–36.
- 鷺谷 威、2004 :「1944年東南海地震の前兆的地殻変動再考」,『月刊飛球』, 305, 746–753.
- Sykes, L. 1971, Aftershock zones of great earthquakes, seismicity gaps, and earthquake prediction for Alaska and the Aleutians, *J. Geophys. Res.*, 76, 8021–8041.
- 杉村 新、1972 :「日本付近におけるプレートの境界」. *科学*, 42, 192–202

第4章第1節

- 阿部信太郎・宮腰勝義・井上大栄・岡田篤正、2004 :「深溝断層海底延長部における海底活断層調査」,『日本地震学会2004年度秋季大会講演予稿集』, 172.
- 愛知県土木部岡崎出張所、1963 :『昭和37年度広田川地盤対策工事認定書』
- 安城市歴史博物館、2006 :『三河地震－直下型地震の恐怖－』, 1–112.
- Ando, M.、1974 :「Faulting in the Mikawa earthquake of 1945」,『Tectonophysics』, 22, 173–186.
- 安藤雅孝、2004 :「1944年東南海地震と1945年三河地震－60周年－」,『月刊地球』, 26, 735–738.
- 安藤雅孝・川崎一朗、1973 :「低角逆断層近傍の加速度－上盤側と下盤側との被害の非対称について－」,『日本地震学会秋季大会講演予稿集』, 107.
- 青木重樹・浜田信生・吉田康宏、2005 :「一元化震源でみる余震活動度の高い過去の内陸地震の痕跡－1945年三河地震 ($M_{JMA} 6.8$) と1943年鳥取地震 ($M_{JMA} 7.2$) －」,『日本地震学会2005年度秋季大会講演予稿集』, P052.
- 地質調査所、1992 :「100万分の1日本地質図(第3版) III関東・中部・分図(南西諸島・小笠原諸島)」.
- 檀原 肇、1966 :「松代地震に関連した地殻の上下変動」,『測地学会誌』, 12, 18–45.
- 土木学会原子力土木委員会、1999 :深溝断層・横須賀断層の調査結果,「原子力発電所の立地多様化技術(追補版)－断層活動性評価技術－(C級活断層の分類と電子スピン共鳴法による断層年代測定)」, 105–123.
- 浜田信生、1987 :「日本列島の内陸部に発生した被害地震に伴う地震活動の再調査とその地震学的意義」,『気象研究所研究報告』, 38, 77–156.
- Hatori, T.、1970 :「Vertical crustal deformation and tsunami energy」,『Bulletin of the Earthquake Research Institute』, University of Tokyo, 48, 171–188.
- 廣野卓藏・本間正作・岩井保彦・野依一郎・關口宇一郎、1951 :『三河烈震地域踏査報告』, 駿震時報, 15, 12–25.
- 飯田汲事、1978 :「昭和20年1月13日三河地震の震害と震度分布」, 愛知県防災会議地震部会, 96.
- 飯田汲事・坂部和夫、1972 :「三河地震における深溝断層の延長部について」,『地震2』, 25, 44–55.
- 池田幹生、1975 :「三河地震の地震断層と被害」, 名古屋大学文学部地理学教室修士論文.
- 池田安隆・今泉俊文・東郷正美・平川一臣・宮内崇裕・佐藤比呂志編、2002 :『第四紀逆断層アトラス』, 東京大学出版会, 254.
- 井上宇胤、1950 :『昭和20年1月13日の三河地震について』, 駿震時報, 14, 49–55.
- 入江紀嘉・福元俊一・釜江克宏、2002 :「1945年三河地震 ($M_j=6.8$) 時の強震動の再現」,『日本建築学会構造系論文

- 集』, 559, 63–70.
- 金澤茂夫、1950 :『三河地震の観測結果報告』, 観測時報, 14, 56–62.
- 金田平太郎・岡田篤正、2002 :「1943年鳥取地震の地表地震断層—既存資料の整理とその変動地形学的解釈ー」, 『活断層研究』, 21, 73–91.
- Kikuchi, M., Nakamura, M., and Yoshikawa, K., 2003 :「Source rupture process of the 1944 Tonankai earthquake and the 1945 Mikawa earthquake derived from low-gain seismograms」, Earth, Planets and Space, 55, 159–172.
- 木股文昭・林 能成・木村玲欧、2005 :『三河地震 60年目の真実』, 中日新聞社, 218.
- 国土地理院、1960 :「三河震災地区二・三等三角復旧測量報告」, 『国土地理院技術資料』, 分類B1.
- 松田時彦、2005 :「鳥取県西部地震(2000年10月)と山陰地域の地震活動—その特異性の検討ー」, 『活断層研究』, 25, 109–116.
- 村松郁栄・松田時彦・岡田篤正、2002 :『濃尾地震と根尾谷断層帶—内陸最大地震と断層の諸性質』, 古今書院, 340.
- 中田 高・栗田泰夫・金田平太郎・堤 浩之、2006 :「2005年パキスタン地震の地震断層と家屋被害」, 『日本地理学会発表要旨集』, 69, 別紙.
- 中山瑠璃夫、1948 :「昭和20年三河地震調査報告—三河湾の海底変化ー」, 『水路要報 増刊号』, 1–4.
- 西尾市史編纂委員会、1973 :「三河地震」, 『西尾市史1 自然環境原始古代』, 1191, 602–622.
- 小川光明・岡村 真・坂口有人・堤 浩之・中田 高・岡田篤正・千田 昇、1991 :「三河湾における深溝断層延長部と中央構造線の音波探査」, 『活断層研究』, 9, 41–52.
- 岡田篤正、2002 :「山陰地方の活断層の諸特徴」, 『活断層研究』, 22, 17–32.
- 岡田篤正、2006a :「1945年三河地震断層の変位地形と諸性質」, 『活断層研究』, 26, 163–192.
- 岡田篤正、2006b :「活断層で発生する大地震の運動・連鎖—中央構造線・濃尾断層系・山陰地域の活断層を事例としてー」, 『月刊地球号外』, 54, 5–24.
- 岡田篤正・松田時彦、1997 :「1927年北丹後地震の地震断層」, 『活断層研究』, 16, 95–135.
- 岡田篤正・鈴木康弘・堤 浩之・東郷正美、2004 :都市圏活断層図「蒲郡」, 国土地理院技術資料D・1, No. 435.
- 表 俊一郎、1946 :「昭和20年1月13日三河地震余震観測(序報)」, 『東京大学地震研究所彙報』, 24, 77–86.
- 斎藤弘之、2006 :「三河地震とは何だったのかー『幻の地震』の実態ー」, 『三河地震一直下型地震の恐怖ー』, 安城市歴史博物館, 112, 98–106.
- 坂部和夫・飯田汲事、1975 :「三河地震における深溝断層の副断層について」, 『地震2』, 28, 373–378.
- 坂部和夫・飯田汲事、1976 :「三河地震における深溝断層の延長部と共に共役な地震断層」, 『地震2』, 29, 411–413.
- 坂部和夫・飯田汲事、1983 :「三河地震における深溝断層の屈曲部について」, 『地震2』, 36, 351–358.
- Sato, H. P., Hasegawa, H., Fujiwara, S., Tobita, M., Koarai, M., Une, H., and Iwashashi, J., 2006 :「Interpretation of landslide distribution triggered by the 2005 northern Pakistan earthquake using SPOT5 imagery」, Landslides, in press.
- 曾根賢治・上田圭一、1993a :「1988年深溝断層(東光寺地区)トレンチ調査」, 『活断層研究』, 11, 43–46.
- 曾根賢治・上田圭一、1993b :「1988年深溝断層(西深溝地区)トレンチ調査」, 『活断層研究』, 11, 47–50.
- 杉戸信彦・岡田篤正、2004 :「1945年三河地震の地表地震断層」, 『活断層研究』, 24, 13–127.
- 田山利三郎、1949 :「渥美湾海底変化の地形学的地質学的吟味」, 『水路要報』, 12, 39–46.
- 堤 浩之・隈元 崇・奥村晃史・中田 高、2000 :「鳥取県西部地震震源域の活断層」, 『月刊地球号外』, 31, 81–86.
- 津屋弘達、1946 :「深溝断層(昭和20年1月13日三河地震の際現れた一地震断層)」, 『東京大学地震研究所彙報』, 24, 59–75.
- 山中佳子、2004 :「1944年東南海地震と1945年三河地震の震源過程」, 『月刊地球』, 26, 729–745.

第4章第2節

- 安城市歴史博物館、2006 :「企画展図録・三河地震一直下型地震の恐怖ー」, 安城市歴史博物館, 123.
- 地域史深溝編さん委員会、1999 :「地域史深溝」, 地域史深溝編さん委員会, 764.
- 飯田汲事、1978 :「昭和20年1月13日三河地震の震害と震度分布」, 愛知県, 96.
- 和泉町犠牲者遺族会、1994 :「三河地震体験手記 恐怖の一月十三日」, 和泉町犠牲者遺族会, 65.
- 川崎一朗・島村英紀・浅田敏、1993 :「サイレント・アースクエイク」, 東京大学出版会, 254.

- Kikuchi M., Nakamura M., and Yoshikawa K., 2003 : Source rupture processes of the 1944 Tonankai earthquake and the 1945 Mikawa earthquake derived from low-gain seismograms, *Earth Planets Space*, 55, 159–172.
- 木股文昭・林能成・木村玲欧、2005 : 三河地震60年目の真実, 中日新聞社, 218.
- 木村玲欧・林能成、2005 : 被災体験の絵画化による災害教訓抽出・整理手法の提案—1944 年東南海地震・1945 年三河地震を事例として—, 歴史地震, vol. 20, 91–104, 2005.
- 幸田町教育委員会、1995 : 「幸田町史資料編2 (近代)」, 幸田町, 1062.
- 小川町郷土史編集委員会、1998 : 「小川の歴史をさぐる」, 小川町郷土史刊行会, 539.
- 富田武平、1989 : 「藤井町 時の流れと私の思い出」, 自費出版, 152.
- 角岡田賀男、1990 : 「学童集団疎開と三河地震」, こころの科学社, 193.
- わすれじの記編集委員会、1977 : わすれじの記—三河地震による形原の被災記録—, 三河地震記念事業奉賛会, 264.

第5章第1節

- 安城市史編集委員会、2006 : 「東南海・三河地震と復旧対策」, 『新編 安城市史7 資料編近代』, 安城市, 659–672.
- 安城市歴史博物館、2006 : 『三河地震 一直下型地震の恐怖—』, 1–112.
- 飯田汲事、1978 : 『昭和20年1月13日三河地震の震害と震度分布』, 愛知県防災会議地震部会, 1–96.
- 小川郷土史編集委員会、1998 : 「明治・大正・昭和の災害」, 『小川の歴史を探る』, 小川町郷土史刊行会, 329–335.
- 木村玲欧・林能成、2004 : 「埋もれている被災風景を掘りおこす—被災写真から得られた碧南市・原田三郎さんの被災体験—」, 『月刊 地球』, 通巻305号・Vol26, No11, 海洋出版, 795–805.
- 斎藤弘之、2006 : 「三河地震とは何だったのか—「幻の地震」の実態—」, 『三河地震 一直下型地震の恐怖—』, 98–106.
- 林能成、2004 : 「1945年三河地震による被害」, 『月刊 地球』, 通巻306号・Vol26, No12, 海洋出版, 825–831.

第6章第1節

- 中日新聞社会部、1983 : 「恐怖のM8 東南海」, 『三河大地震の真相』, 中日新聞社

第6章第3節

- 中日新聞社会部編、1983 : 「恐怖のM8 東南海」, 『三河大地震の真相』, 306.
- 萩原尊禮、1982 : 『地震学百年』, 東京大学出版会, 233.
- 萩原尊禮、1997 : 『地震予知と災害』, 丸善 174.
- 廣野卓蔵・本間正作・岩井保彦・野依一郎・関口宇一郎、1951 : 『昭和20年1月13日三河烈震地域踏査報告』, 験震時報, 第15卷, 第3–4号, 12–15.
- 伊藤和明、2005 : 『日本の地震災害』, 岩波新書, 167.
- 木股文昭・林能成・木村玲欧、2005 : 『三河地震60年目の真実』, 中日新聞社, 218.
- 宮村攝三、1991 : 『回想の地震学人生』, 新日本出版社, 267.
- 名古屋帝国大学理学部・名古屋地方気象台、1945 : 「昭和19年12月7日東南海地震に関する踏査報告」, 79. (原本は手書き原稿で名古屋地方気象台に保管されていた。愛知県防災会議によって昭和50年3月に活字化され印刷・出版されている。)
- 大庭正八、1957 : 「1944年12月7日東南海地震に見られた遠江地方の家屋被害分布と地盤の関係」, 『地震研究所彙報』, vol. 35, 201–295.
- 東京帝国大学地震研究所、1945 : 『東京帝国大学地震研究所研究速報第4号』